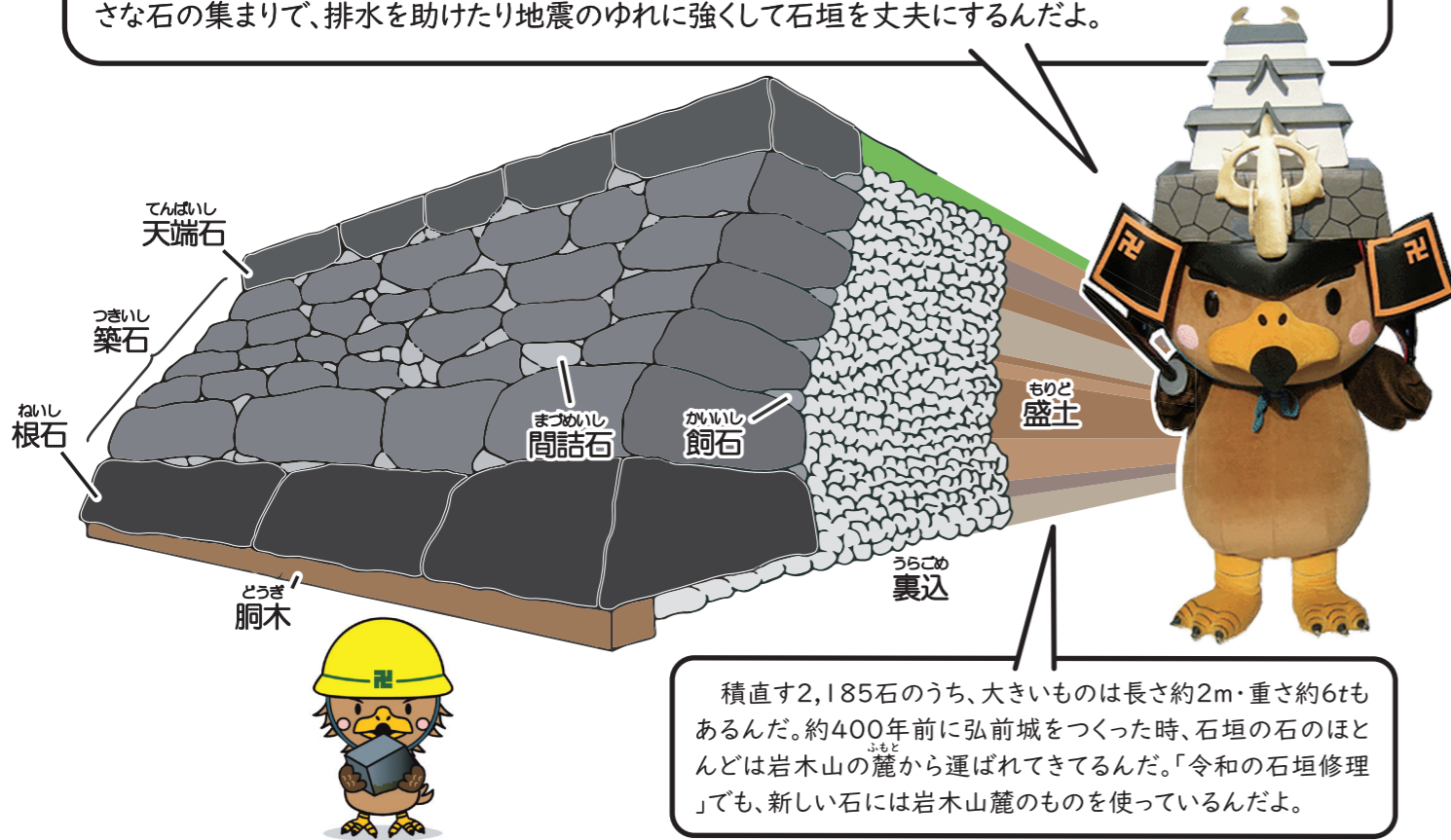


石垣はどのように作られているのでしょうか

江戸時代の人々が石垣を築く時は、**胴木**で基礎を作ってから石を積んだんだよ。**築石**の中で一番下になる石を**根石**、一番上を**天端石**というんだ。**築石**と**築石**のすきまにつめるのが**間詰石**、**築石**をすえるときに横や後ろにはさんで石の角度を調整する石を**飼石**というんだよ。**裏込**は、**盛土**と**築石**の間に詰め込む小さな石の集まりで、排水を助けたり地震のゆれに強くして石垣を丈夫にするんだよ。



積直す2,185石のうち、大きいものは長さ約2m・重さ約6tもあるんだ。約400年前に弘前城をつくった時、石垣の石のほとんどは岩木山の麓から運ばれてきてるんだ。「令和の石垣修理」でも、新しい石には岩木山麓のものを使っているんだよ。

石垣修理のスケジュール

石垣を解体した後、石垣の積直しを行い、その後に天守を元の位置に戻します。

[平成27年度] ◆8月16日～10月24日 天守曳家(写真⑧)

[平成28年度] ◆天守を移動先で公開 ◆石垣解体工事着手

石垣を解体する前に、石に番号付けを行い記録を採取

[平成29年度] ◆4月9日 石垣解体始め式

第1石目を解体して石垣解体工事が本格化

[平成30年度] 2,172個の石を解体

[令和元年度] 積直し方法の検討・設計

[令和2～6年度] 石垣のふくらみを直すため、修理範囲北側の13石を追加で解体
石垣積直し工事(写真⑨)

[令和8年度] 天守を元の位置に移動予定



弘前城本丸石垣修理

ひろさきじょうほんまるいしがきしゅうり

弘前城本丸のふくらんだ石垣を直すため、約100年ぶりに天守を曳家してから、石垣を取り外して元々の形に積直す工事を進めています。

たか丸くん
(石垣修理バージョン)

ひろさき応援寄附金(ふるさと納税)

【特別コース】弘前城天守がお引越し！世紀の石垣大修理～石垣普請応援コース～

弘前市 ふるさと納税

検索



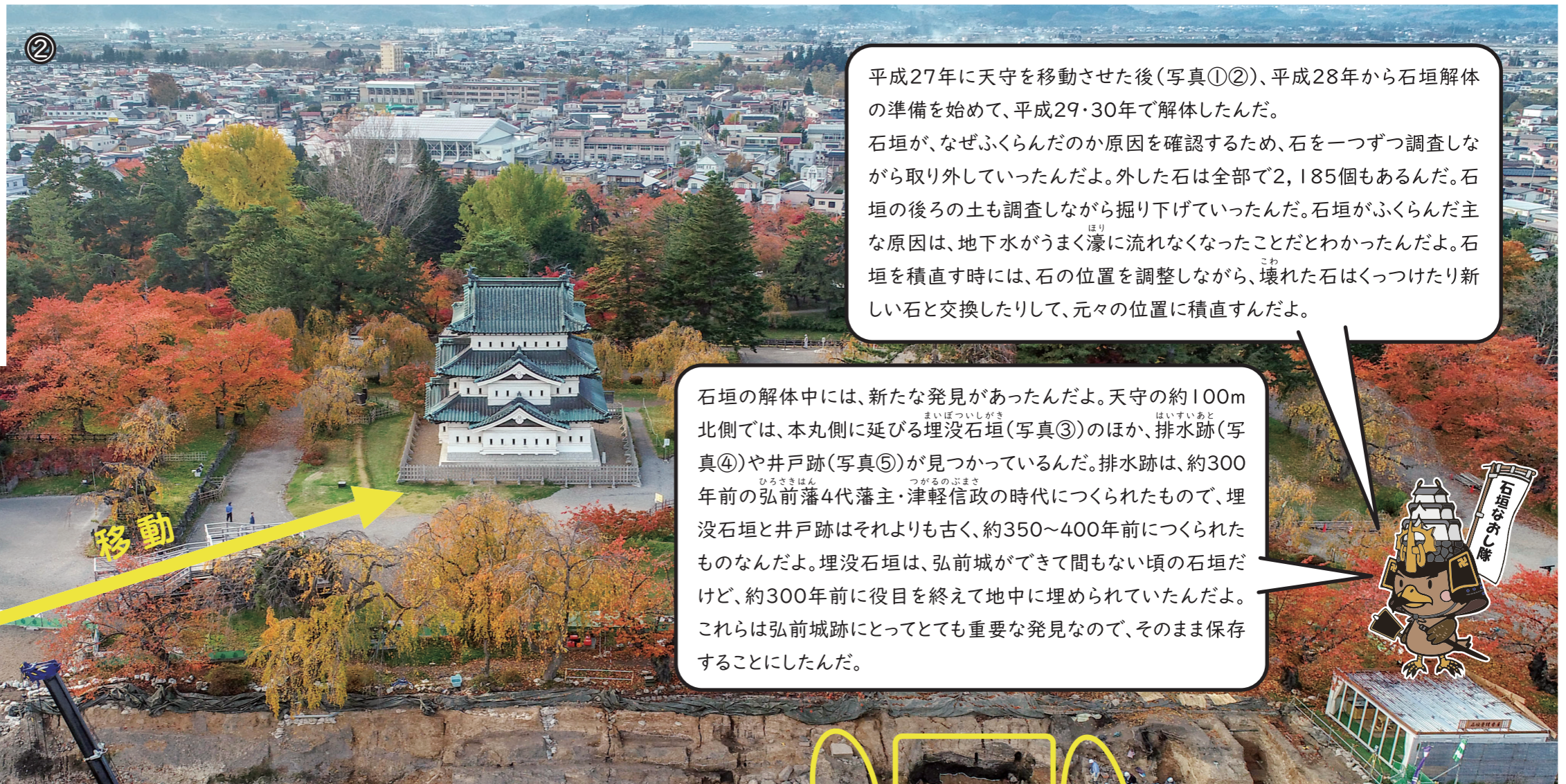
詳しくはこちら→<https://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/seido/hitokuchijosyu.html>

【発行】弘前市公園緑地課弘前城整備活用推進室 〒036-8356 青森県弘前市大字下白銀町1

メールアドレス: kouen@city.hirosaki.lg.jp TEL: 0172-33-8739 FAX: 0172-33-8799 【令和5年(2023)7月31日発行】



平成26年(2014)4月撮影



平成27年に天守を移動させた後(写真①②)、平成28年から石垣解体の準備を始めて、平成29・30年で解体したんだ。
 石垣が、なぜふくらんだのか原因を確認するため、石を一つずつ調査しながら取り外していったんだよ。外した石は全部で2,185個もあるんだ。石垣の後ろの土も調査しながら掘り下げていったんだ。石垣がふくらんだ主な原因は、地下水がうまく濠に流れなくなったことだとわかったんだよ。石垣を積直す時には、石の位置を調整しながら、壊れた石はくっつけたり新しい石と交換したりして、元々の位置に積直すんだよ。

石垣の解体中には、新たな発見があったんだよ。天守の約100m北側では、本丸側に延びる埋没石垣(写真③)のほか、排水跡(写真④)や井戸跡(写真⑤)が見つかった。排水跡は、約300年前の弘前藩4代藩主・津軽信政の時代につくられたもので、埋没石垣と井戸跡はそれよりも古く、約350~400年前につくられたものなんだよ。埋没石垣は、弘前城ができて間もない頃の石垣だけど、約300年前に役目を終えて地中に埋められていたんだよ。これらは弘前城跡にとってとても重要な発見なので、そのまま保存することにしたんだ。



平成30年(2018)11月撮影



埋没石垣



明治29年の石垣崩落位置
弘前図書館蔵



内濠で見つかった帯コンクリート



天守近くの石垣は、明治時代に2度も崩れているんだ(写真⑥)。その後大正4年(1915)に石垣を積直す際には、明治29年(1896)の崩落位置を中心にコンクリートを使い、もう崩れないように修理したんだ(写真⑦)。



排水跡



井戸跡